



人間の体も、同じです。絶えず生まれる細胞と減びていく細胞があり——そのリズム、全体調和によって、一つの「体」が存続しています。もし、そのリズムや調和が崩れてしまったら——たとえば、本来は寿命を迎え減び消えゆくべき細胞が、何らかの変異により減び消えないまま残ってしまったとしたら、「体」は存続の危機を迎えます。

がんという病気は、まさにそういう病気です。寿命を迎え本来消滅すべき細胞がきちんと消滅することを「アポトーシス」といいます。この起こるべく「アポトーシス」が何らかの原因（遺伝子が起こすエラー）によって起こらず、まるでゾンビのように生き続け、体に悪さを働く細胞——それががん細胞です。がん細胞は、困ったことに、単に悪さをするだけではなく、見えない所でいつの間にか仲間をつくって増殖し、その増殖した仲間が突然、体の別の場所で悪さをし始めるといふ、神出鬼没な性質の悪い輩なのです。

しかし、であればこそ、「がんはどうすれば治るか」の答えははっきりしています。がん細胞の「増殖」を抑え、「アポトーシス」を誘発することです。

私は、1978年に九州大学大学院農学研究科の博士課程を修了し、米国オレゴン州立大学の訪問助教授等を経て、1995年に九州大学大学院農学研究科遺伝子工学専攻の教授に就任し、現在に至っております。数十年にわたり毎日、細胞や遺伝子という視点から人間の体のしくみを見続けてまいりましたが、知れば知るほど、人間の体は神秘に満ちています。

約60兆個の細胞から構成される「人間の体」は、数千億個の星から構成される「宇宙」とまったく等しいことを実感します。宇宙では、絶えず新しい星が生まれると同時に、老いて寿命を迎えた星が消えていきます。生まれる星がある一方で滅びていく星もあり——その繰り返しのリズム、全体調和によって、「宇宙」はある秩序をもって「存続」しています。言い換えれば、生まれる星と滅びる星のリズムと調和が崩れた時、宇宙は秩序を失い、存続することができなくなるでしょう。

■健康とは。病気とは。

■がんの性質、性格。

■絶え間ない「置き換え」によって維持されている人間の体。

■がんになった自分をみつめ直すこと。

■病院や薬選びよりも大切なこと。

.....  
32 36 39 41 44

## 第2部 がん治療に関する研究報告

### 研究報告

ここまで解明された

低分子化フコイダンの抗腫瘍効果

■1 ある「奇跡」との出会い

■2 余命宣告を受けた「がん難民」たち

■3 統合医療が「がん難民」を救う

■4 低分子化フコイダンは、なぜ効くのか

.....  
48 51 56 66

## 目次

はじめに

..... 3

### 第1部 がんという病気について

がんとは何か。

- 生活習慣が生み出す、過剰な活性酸素。..... 19
- 老化がもたらす、免疫力の低下。..... 24
- 献身的な正常細胞に対して、わがままで勝手極まりないがん細胞。..... 26
- 統合医療アプローチによる、がん治療の新たな可能性。..... 29

がん治療のために大切なこと。

病氣や困難（敷しさ）も自分や周りの人を救えるために生じていることを信じること。

がんは頑固な心や不自然な心（恨み、ねたみ、そねみ、自己中心的なわがままな心、集り）によって生じていることを理解し、あらゆる人、事に、物に感謝する素直な心（善なる想い）をとり戻すこと。

薬やサプリメントの作用をよく理解し、その効果を信じること。信じる力が重要。よい食べ物、適度な運動・睡眠、よい生活習慣を身につけること。

物事をたたくさんの角度（接点）から捉え、その関係を理解する（接線を引く）ことで物事の本質を捉える柔軟な心、多面的な心を得ることができる。最後は病気になったことにも感謝できるようになれば、病気も気づかせの役割を終え、消失するものと思われる。

● **がんを克服するための心のあり方** ●

「人生は死んでも終わりでない」ということを信じること。自分の心(魂)は永遠に生き続けることを信じること。それにより「心の安定のゆとり」を得ることが出来る。

人間は愛(優しさ、思いやり、厳しさ)を学ぶために高次元世界からこの世(3次元世界)に降り降りてきて学んでいることを信じること。  
転生輪廻。

人間は自由と創造力をもった特別な存在であり、病気をつくり出すことも消し去ることもできることを信じること。がんは治る病気であり、自分がつくり出したのだから、自分で消すこともできることを信じること。